

「フィルムリーディング・シリーズ 5 消化管」

齊田 幸久 編集

東京大学大学院教授・放射線診断学

大 友 邦

毎年シカゴで開催されている北米放射線学会 (Radiologic Society of North America; RSNA) は、8 万人が参加するビッグイベントである。その RSNA の最大の呼び物として、日曜夕方方に Arie Crown Theater で開催される image interpretation session の面白さを誌上に再現することを目的に企画されたシリーズの 8 冊目として、「フィルムリーディング・シリーズ 5 消化管」が出版された。

本書は、消化管の解剖と最近の話題をまとめた総論と、79 例の症例 (食道 9, 胃 18, 十二指腸 11, 小腸 12, 大腸 15, 直腸 6, 腸間膜・腹膜 8) から構成されている。1 症例につき表裏 2 頁で、表側に部位と異常所見を組み合わせたタイトル (例: 表面平滑な球部隆起性病変), 年齢, 性別, 主訴, 現病歴とともに消化管

造影を中心とした各種の画像が提示されている。そして裏側に所見, 鑑別診断の進め方, 診断, 診断のポイントという項目立てで診断のプロセスが詳細かつ丁寧にまとめられている。更に疾患についての一般的知識をまとめた囲み記事として「病気の豆知識」と 1~3 点の参考文献が記載され, 最後に☆から☆☆☆までの 3 段階に分けられた難易度マークが示されている。執筆者は, あくまでもオーソドックスな消化管二重造影を中心に据える八巻悟郎氏 (食道担当) と松井敏幸氏, 綿密な所見の拾い上げと分析で病態にせまる森山紀之氏 (胃担当) と黒田知純氏 (大腸担当), 内視鏡/超音波内視鏡を駆使して病理像にせまる川元健二氏 (十二指腸/大腸担当), 基本に忠実な一方でひねりをきかせた読影に定評のある齊田幸久氏 (編集/腸間膜・腹膜担当)

など消化管の超エキスパートぞろいである。

読者はこれらの症例を読み進むことにより, 例えば同じ悪性腫瘍でも癌と悪性リンパ腫, そして平滑筋肉腫による粘膜面の変化, 狭小化, 潰瘍形成がどのように異なるかが理解できる。そして消化管の感触や光沢を実感しながら, 単に診断の当たりはずれにはとどまらない消化管領域の画像診断の奥義に 1 歩ずつ近づくことができる。消化管をはじめとする腹部領域の臨床に携わる放射線科, 消化器内/外科の若手の方には何度も読み返す教科書として, ベテランの方にはリフレッシュに最適な 1 冊として本書を強く推薦する。

● B5 頁 184 図 3 写真 307
カラー写真 49 2001 定価 (本体
6,500 円 + 税) 送料実費

— 医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)